品川・生活者ネットワーク NEWS No.116

2019.8/1

羽田新ルート計画に異議！　生活者ネットのメンバーも多数参加した、「都心低空飛行問題シンポジウム」（主催：同実行委員会）。後半のセッションで、計画撤回に向けていま何をすべきか意見を出し合うシンポジストら。大井町、2019年7月19日

日本ケアラー連盟が主催するシンポジウムに参加。先駆的にケアラー支援や条例づくりに取り組む自治体の事例報告と意見交換を行う。東京・生活者ネットワークではケアラー支援条例策定に向けた連絡協議会を立ち上げた。2019年6月23日

区政now

生活に身近な行政計画策定が進行中

品川・生活者ネットワーク
区議会議員
田中さやか

品川・生活者ネットワークは区の計画に市民の参画が欠かせないと主張してきました。

来年度「品川区長期基本計画」と「品川区子ども読書活動推進計画」、「品川区子ども・子育て支援事業計画」が改定されます。それに伴い、各策定委員会が開催されています。

生活者ネットワークが求めてきた委員会の公開は徐々に進んでいますが、傍聴者への資料配布、議事録の公開、計画策定時の説明会等は道半ば、引き続き働きかけています。そもそも計画の公開にも課題があり、本区公式ホームページ（HP）を4回（※）クリックしないとアクセスできません。

（※）公式トップページ→区政情報→区政に関する資料→財政・行政改革他→計画・プラン→個別計画

行政主導で進んでいないか

私が傍聴した、子ども・子育て会議では「資料閲覧のみ」から「資料配布」に改善が見られました。しかし過日開催の同会議では、当日に分量のある資料が委員に机上配布され、区の示した要旨に沿い議事が淡々と進行する場面がありました。他の会議でも必要資料が出ていないケースが散見され、積極的な議論の妨げとなっているのでは、と疑念を持ちました。区民意見の反映に対する区の姿勢が問われます。

パブリックコメントの応募告知にも問題あり

区の公式HPに2013年以降実施の25件のパブリックコメント（以下パブコメ）実績が公表されています（別表）。「広報しながわ」の発行日が周知開始日で、その日を起点に応募が始まります。区民が「広報しながわ」の告知記事を見逃すと、気づいた時にはすでに期限が迫った状況にもなりかねません。

実施	期間	タイトル	応募人数	所管課
2013/10	30日	品川区長期基本計画改訂素案（案）	205	企画財政課
2017/10	14日	品川区学事制度審議会　答申	27	学務課
2014/12	17日	品川区障害者計画・障害者福祉計画（素案）	19	障害者福祉課
2015/10	14日	品川区教育大綱素案　（案）	19	企画調整課
2014/11	20日	品川区配偶者暴力対策基本計画改訂版（案）	0	人権課
2018/12	28日	品川区空き家等対策計画	1	住宅課
2018/ 2	29日	品川区環境基本計画　（素案）	3	環境課

2013年以降実績トップ3とワースト3（品川区HPより）

市民協働のまちづくりへ ―パブコメ等スケジュールの見直しを！

区の上位計画となる長期計画の策定委員会スケジュールは9月に素案（案）を公表し、10月実施のパブコメ結果を受けて、11月に素案（修正版）が示され、12月には答申にまとめられます。

初回会議にはすでにスケジュールが示されており、パブコメを前提にした素案説明などは一切ありません。区民生活に関わる計画の策定には、全庁的な意識改革のもとスケジュールにパブコメ前の説明会を盛り込むことを求めます。

区政now

都心低空飛行問題シンポジウムに280人が参集

7月19日、大井町きゅりあんを会場に標記の集会が同実行委員会の主催で催され、周辺21区市から280人余が参集。国が進める羽田新飛行ルート計画の危険性を広く市民に伝え、計画の撤回を勝ち取るまでともに行動しようと約す場となった。

●一番心配なのは"墜落"事故――新ルート計画は撤回しかない！

基調講演に登壇したのは、航空評論家で元日本航空機長の杉江弘さんだ（写真）。杉江さんは航空機の安全運航と対極にある新ルート計画について、ジャンボジェット飛行時間世界一の記録を更新中のレジェンドゆえの観点から論説を加えていく。

まずは騒音問題だ。計画では練馬、豊島、新宿、渋谷、目黒、港、品川といった都心上空を着陸態勢に入った機体が300メートルの低空で通過（時間帯は15～19時、1時間あたり44便）。窓をあけて走る地下鉄の車内並みの騒音が続くことに。国交省は最近、着陸直前まで少しでも高い位置を飛ぶことで騒音を減らすとして、着陸時侵入角度を3.5度に変更（世界標準は2.5～3度）するとしている。ところが、杉江さんによれば、これはパイロットにとっては垂直落下に等しい程のストレスを与える変更であって、事故発生率を高めるだけと断罪。

車輪を出すタイミングは都庁辺りから渋谷、品川の上空にかけて。脚下げに伴う氷塊の落下は避けられないばかりか、落下物はこれに留まらない。17年3月末までの8年間で、整備点検で確認された部品脱落は451件。うち691件は空港内で発見されているが、369件は落下地点は不明のまま（外国の航空会社は対象外）。さらに昨今では、国内外の航空機のパネルが落下する重大事故が起きている。

そして杉江さんが最も危惧するのが"墜落"だ。機体のわずかな欠陥や整備ミス、ヒューマンエラーが引き起こす墜落事故。その事故率は巨大ハイテクシステム導入にもかかわらず減少の兆しはない。事実、これまでに100人を超える死者を伴う事故と事件は198件、関わった航空機は213機（17年2月現在）。新ルート計画で一番心配なのは都心部を低空飛行すること。何らかのトラブルで墜落したら、最悪の悲劇が起こる。

●新ルート計画を止める――つながる、広げる、行動する！

シンポジウムでは、まず「羽田問題のこれまで、これから」（戦後GHQにより占拠されて以降、今日の羽田空港に至るまでの歴史／裁判を含む活動を経て、海から入って海へ向かって飛行するルートを保ってきた羽田の活動史／新ルート直下で保育士をする元園長は、乳幼児や学齢期の子どもたちに与える悪影響／視覚障がい者団体から、音を頼りに暮らしの安全を保っている現状と低空飛行による騒音問題／国連「持続可能な開発目標SDGs」に逆行する航空行政など）を共有。続いて、計画の撤回を勝ち取るために「いま私たちができること」が提起され、講師・シンポジスト各位、会場の参加者らの承認のもと、明日からの協働を約し、行動計画が共有された。

▼言論空間を広げるためのSNS活用～ポータルサイト立ち上げ▼ルート直下の自治体首長との懇談、議会との懇談▼実機による都心低空飛行実験を国に要請▼万一新ルート計画決定が行われた場合を想定し、行政訴訟＝1万人クラウド訴訟＝を速やかに行うための準備を開始する。

6.29 しながわ子ども食堂フォーラム2019

●会場となった中小企業センターレクリエーションホールでは、子ども食堂の風景、事例紹介の展示や企業から寄付された食材を用いた料理が提供され、楽しみながら参加する姿が見られた。●臨床心理士室田洋子さんの基調講演に続くパネルディスカッションでは、地域、企業との良好な連携、関心のある市民らとのネットワークなどについて、子ども食堂から報告があった。子ども食堂が広がりを見せる中で、利益のために悪用されかねない事例も出され驚く場面もあり、本来の目的は何かを、それぞれの立場から考える機会となった。●写真は、パネルディスカッションのコーディネータを務めたフォーラム実行委員の小野幸子さん（左）と田中さやか。2019年6月29日

INFORMATION

学習会『ゲノム編集食品と食の安心安全』

日時／2019年8月27日（火）14:00～15:30（受付13:30）
場所／荏原第五区民集会所第3集会室（3階）
★品川区二葉1-1-2　☎03-3785-2000
東急大井町線下神明駅下車徒歩2分
講師／西分千秋さん
（たねと食とひと@フォーラム事務局長）
参加費／無料
定員／40名

★託児はありませんが、お子さんと一緒に参加ください。
品川・生活者ネットワークはすべてのゲノム編集食品の規制と表示を求める100万人国会署名活動を行っています。

問合せ・申し込みは、
品川・生活者ネットワークへ
TEL**03-5751-7105**／FAX03-5751-7106
Eメール：shinagawa@seikatsusha.net

編集後記／今夏の長雨による野菜値の高騰は家計に打撃を与えた。海水温度の上昇は海苔の生育不良を引き起こしていると聞く。身近な生活に影響する地球温暖化。世界規模の対策とともに、地域の取り組みが求められる。（田中さやか）